

〔箋注倭名類聚抄手足〕於與比見源氏物語帶木卷略。中按說文指手指也孫氏蓋依之略。○中神代紀

指間訓多奈萬多廣韻作筮者著著指間按說文扱易筮再扱而後掛玉篇扱易曰歸奇於扱凡數之餘謂之扱此似不可無筮者著著字然易釋文引馬融云指間也唐韻或依之不與廣韻同也

〔類聚名義抄三〕指音旨ユヒ指俗云オヨヒ指正指

〔伊呂波字類抄由〕指體指同〔同於〕指亦作指指

〔增補下學集上二〕指支體指ヲユヒ

〔身體和名集以〕イビ 指

〔安齋隨筆前編三〕および 指の事なり古き物語などには多くおよびと書けり和名抄に指和名

由比俗云於與比と見えたり然ればゆびと云ふは本名にておよびと云ふは俗語なりおよびを大指と心得又小指と心得るはあやまり也

〔和漢三才圖會十二〕指音止指和名由比杜音母扱和名指乃末太 膈音羅和名天乃阿夜

手足指十以通十二經 指間曰扱 指文曰膈 手足指節鳴曰筋音博

巨指大指也足大指曰扱 食指人指之指也

將指中指也俗云長高指タケ無名指俗云紅粉付指 季指小指也

左傳注云手中指爲將指足大指亦爲將指言其將領諸指也足之用力大指居多手之取物中指爲

長故也

〔和漢三才圖會十一〕指同身寸法

男左女右手大指與中指曲屈如環而以中指第一第二橫文盡處爲一寸凡手足之寸及背部之橫寸皆用之其他宜用其處處骨度

〔土佐日記〕廿日承平五年正月五きのふのやうなれば船いださずみなひとくうれへなびくくるしく